

円山川緊急治水対策の概要

－ 水害に強い地域づくりを目指して －

平成16年10月洪水(台風23号)と同規模の洪水に対して、再度災害及び床上浸水被害を軽減します。



豊岡市街地の浸水状況

平成16年10月20日の18時頃、近畿地方に上陸した台風23号は、円山川流域に豪雨をもたらし、円山川の六方地区、出石川の片間地区では破堤による甚大な被害が生じ、豊岡市街地に代表される内水被害など下流域全体で浸水面積4,083ha、家屋の全・半壊1,542戸(一部損壊を含む)、浸水家屋10,332戸に及ぶ壊滅的な被害が発生しました。

豊岡市等において甚大な被害が発生

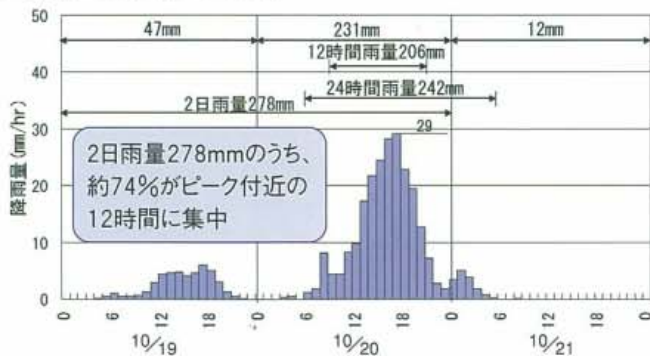
■一般被害の状況

市町名	人的被害(人)			住家被害(戸)				
	死者	負傷者 重傷	軽傷	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
豊岡市	1	3	7	5	22	1,082	3,852	4,374
城崎町						21	288	348
日高町	2	3		1	17	126	536	451
出石町	2	1	1	16	205	47	298	185
計	5	7	8	22	244	1,276	4,974	5,358

兵庫県調べ11/15現在

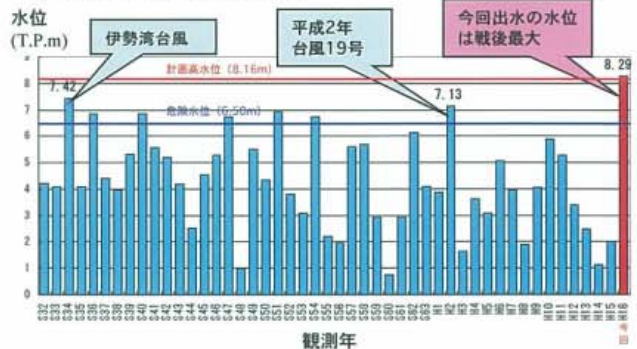
12時間で200mmを超える豪雨が発生

■流域平均雨量(立野上流域)



観測開始以降、最高水位を記録

■年最高水位(立野水位観測所)



洪水被害を軽減するためのソフト対策の推進

洪水被害を軽減するためには、ハード対策だけではなく、ソフト対策も重要です。

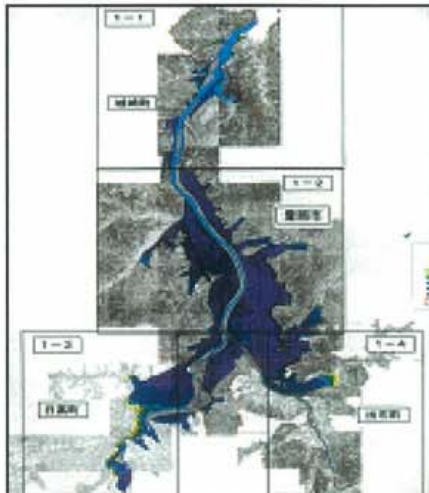
円滑な避難体制、出水情報の発信

円山川緊急治水対策では、関係機関と連携した避難体制の強化、地域社会への防災情報の提供などのソフト対策に取り組み、地域住民の円滑な避難を確保します。



災害情報協議会 (仮称) を設置し、地域住民、防災関係機関および道路管理者等との連携を強化します。

洪水ハザードマップ作成の支援



洪水ハザードマップを作成する際に必要な技術的支援を行います。

CCTV (監視カメラ)



CCTVの増設により、円山川全川の監視が可能となります。

定期的な堤防高さの計測

円山川の流れる豊岡盆地一帯は地盤沈下が特徴です。そのため、円山川の堤防は一度築堤しても数年後には沈下が避けられず、継続的な高さ管理と維持が重要課題となっています。今後、定期的な堤防高さの計測と築堤による高さ管理を実施します。



皆様の御協力をお願いいたします。

■ お問い合わせ・連絡先

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所

〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町10番3号
TEL.0796-22-3126 (代)
ホームページ:<http://www.kkr.mlit.go.jp/toyooka>



円山川緊急治水対策の内容

「円山川緊急治水対策」では台風23号と同規模の豪雨が降った場合でも、再び同じ被害を繰り返さないために、緊急的かつ集中的な円山川の河川改修を実施し、併せて家屋の床上浸水被害の解消を目指します。

[緊急治水対策] 約900億円

[激特事業] 650億円

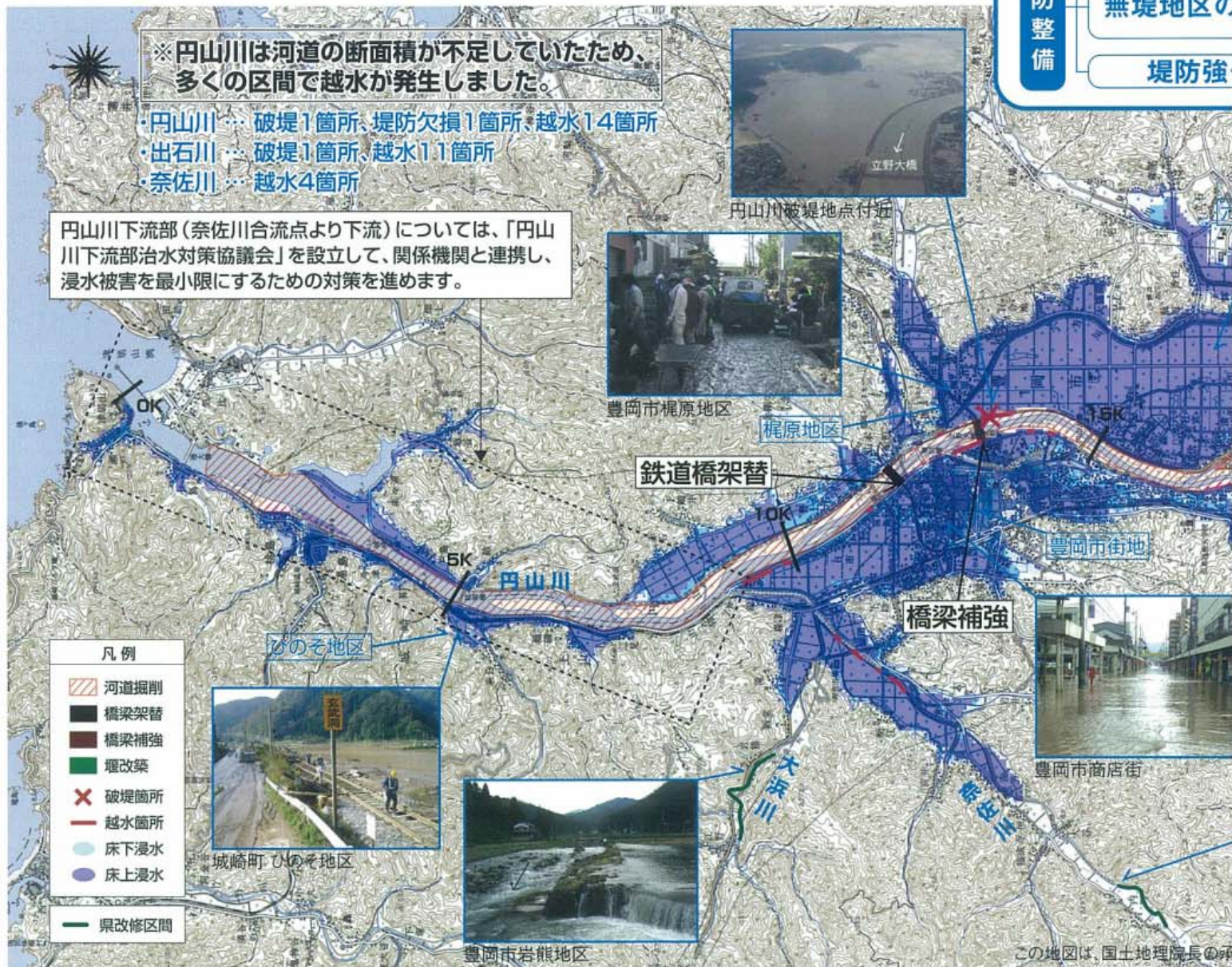
◎河道整備、築堤、内水対策、堤防強化等

◎遊水地の整備

※激特事業（河川激甚災害対策特別緊急事業）とは、激甚な一般被害を被った河川についておおむね5ヶ年程度を目途に、再度災害防止のため実施する河川改修工事の公共事業名です。

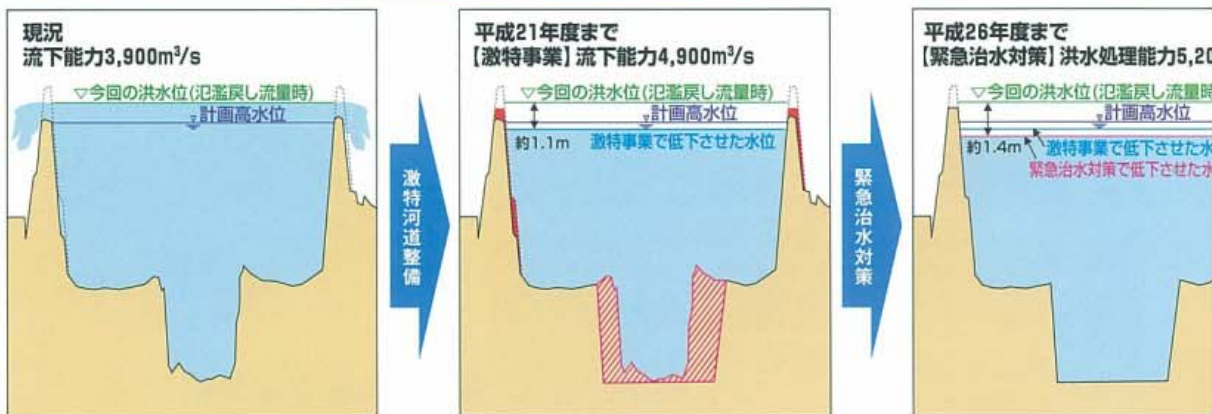
破堤の回避

- 河川水位の低下
- 河道掘削
- 橋梁、堰の遊水地の確保
- 堤防高さの確保
- 築堤（破堤箇所）
- 無堤地区の築堤
- 堤防強化



外水対策の効果

立野地点では、河道の整備と遊水地の整備によって約1.4mほど水位が低下し、台風23号による被災流量4,900 m³/sを安全に流すことができます。



内水排除の強化

排水ポンプの増強

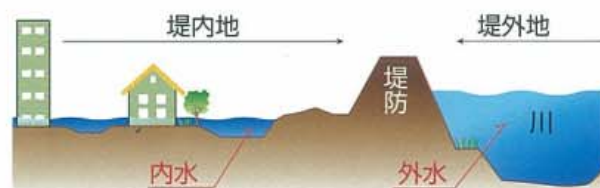
家屋の床上浸水被害を軽減するため、排水機場を整備します。

内水河川、水路の整備

内水地区の排水がしやすいように内水河川、水路の整備を関係機関と連携して進めます。

【外水・内水とは?】

堤防をはさんで私達の住んでいる所を堤内地、川側を堤外地といいます。これより、堤内地にたまる水を内水、堤外地の流水を外水といいます。



【内水被害の仕組み】

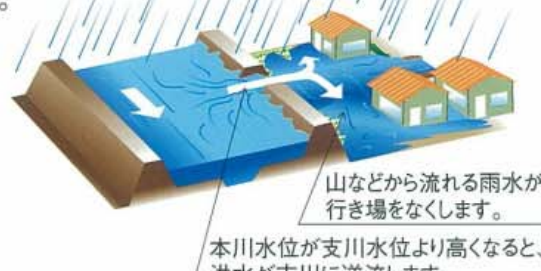
〈平常時〉

平常時は、支川の水は本川へ自然に排水されます。



〈洪水時〉

大雨が降り、本川の水位が支川の水位より高くなると、山などから流れ込む雨水が行き場をなくし、内水被害が起こります。

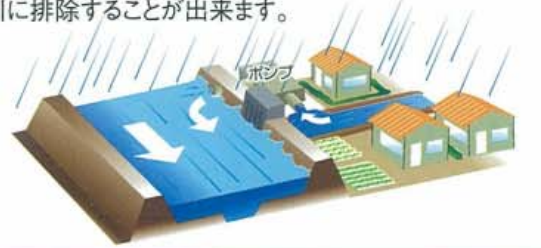


【対策方法】

支川の末端に水門を設置すると、本川からの逆流を防ぐことができます。ただし、山などから流れ込む雨水は、本川に流れません。



排水ポンプを設置することにより、堤内地にたまった内水を本川に排除することが出来ます。



河道を掘削して河川水の流れる断面を広げ、洪水時の水位を下げます。

洪水の流下を阻害する橋梁や堰を改築します。

洪水で河川があふれそうになった時、遊水地で洪水を一時的にため、流量を低減させます。

堤防の拡幅や嵩上げ(施工高:計画高水位+0.5m)を行い、必要な断面を確保し、管理します。

円山川立野地先、出石川鳥居地先における堤防の本復旧をH17出水期までに実施します。

浅倉地区、赤崎地区、中ノ郷地区で築堤を行い、円山川下流部については円山川下流部治水対策協議会を設立して関係機関と連携し、浸水被害を最小限にする対策を進めます。

堤防を質的に強化して、河川の水や雨水の浸透を抑制します。



県管理区間の対策

台風23号では県が管理する河川でも大きな被害が発生しました。このため、県では円山川緊急治水対策と密接に関係する河川の改修を進めます。



大浜川 上流部出水状況